

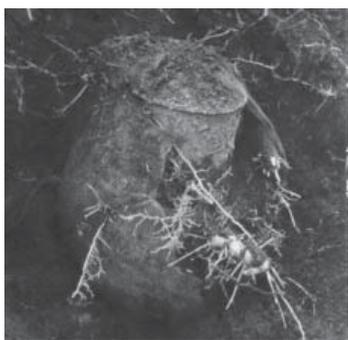
鉢塚古墳上から経塚発見

鉢塚2丁目の五社神社境内には巨石の横穴式石室で、大阪府史跡に指定されている鉢塚古墳があります。昭和39年(1964)4月、この石室に雨漏りがするというので、古墳頂上を掘って石室天井部をセメントでふさぐ作業を行っていたところ、突然、経塚に関する遺物が相次いで現れました。この知らせを宮司から聞いた私は、急いで現場に向かいました。

経塚発見の状況

経塚とは盛土をしてその中に仏教経典を納めたもので、平安時代の中ごろ、慈覚大師が唐から伝えたことに始まるといわれています。

鉢塚古墳の場合、古墳をそのまま



経塚発見の状況

塚として利用していません。頂上に穴を掘り、その中に鎌倉時代の須恵質の鉢をかぶせた須恵質の甕を入れていました。また甕の周りから一緒に納めた方鏡、短刀、白磁製合子、鉄製片口容器、宋銭などが出土しました。甕の中には径14・5釐、高さ約30釐を測る銑鉄製の蓋付き筒状容器がありました。この筒状容器は経典を納めた経筒と思われるのですが、中には何もありませんでした。恐らく、経典は朽ち果ててなくなったものと思われる。

末法思想と経塚

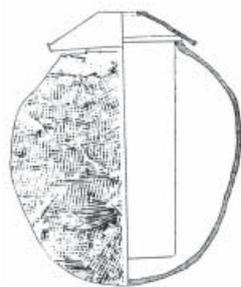
仏教には末法思想という、一種の歴史観があります。釈迦の死(入滅)後、正法・像法・末法という時代を経て、仏の教えが衰亡していくという思想です。

日本では平安時代の永承7年(1052)に末法の時代に入るといって説が定着しました。折しも、武士の台頭や貴族政治の腐敗といった政治・社会秩序の荒廃、自然災害が相次いで起こり、人々の間で末法思想が一気に広がったのです。こうした社会不安の中、釈迦入滅から56億7千万年後、人々を救う弥勒菩薩が現れるまで、経典を保管して伝えていこうという目的から、各地で経塚が盛んに作られました。

なお、鎌倉・室町時代になると、経塚は本来の目的から離れ、供養や祈願のために作られるようになりました。

池田に残る経塚

鉢塚古墳上の経塚は経典こそ残っていませんでしたが、一緒に埋納された遺物は良好に保存されていました。当時の人々の信仰を考える上で貴重なこれらの遺物は、本市の重要文化財に指定されています。



経塚に用いられた甕と経筒

かつて、阪急「池田」駅の西側には「梅室」「姫室」と呼ばれる塚が、また、市役所の南には「村重塔」と呼ばれる塚がありました。梅室・姫室は明治42年(1899)、箕面有馬電気軌道(現・阪急電鉄)敷設に先立って発掘され、梅室からは三面の和鏡が出土しました。一方、姫室からは何も出土しませんでした。なお、「村重塔」は既に失われており、詳細は不明です。

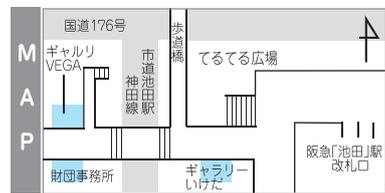
平たん地にポツカリ土まじゅうのように分布していたこれら三基の塚は、中世の人々が供養や祈願のために作った経塚だった可能性がありません。

市史編纂委員会委員・富田好久

問い合わせは社会教育課市史編纂
(753・2904)

『新修池田市史』発売中です。

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

片岡宏幹金工展	~ 11/9
河合絵一油彩展	11/11 ~ 16
加藤信子個展	11/18 ~ 23
汪洋洋画展	11/25 ~ 30

【ギャルリVEGA】

「北摂春秋」江原和足展	~ 11/9
工房ハバナロマン教室の展示会	11/11 ~ 16
- 花と葉っぱのコラボレーション -	
北典子展(陶)	11/18 ~ 23
近藤雄士「木の家具展」	11/18 ~ 23
「手作りハウス」	11/25 ~ 30
井手津久雄陶芸展	11/25 ~ 30

【開館時間】10:00~19:00(11/9は18:00まで)、いずれも最終日は16:00まで

【休館日】火曜日(11/3は除く)

【入館料】無料

【使用料】

ギャラリーいけだ 5万円(展示販売不可)

ギャルリVEGA 15万円(ブロックの分割

使用=7・10万円=、展示販売も可)

【使用期間】水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】使用希望月の1年前から

使用申し込みは
いけだ市民文化振興財団
(750・3333)